

「二」 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「お金さえあれば……できる」という条件命題は、確かに真であるが、それは、同時に「お金がなければ……できない」ということも含意している。

確かに、お金がなければ、満足な医療や教育さえ受けられず、明日の米びつさえ開かないという悲惨が待ち受けている。現代社会の問題は、本来は流通することが命だったお金という富が一極に集中してしまい、国家による分配機能が働かなくなっていることだろう。全米で下位50%の総資産が、トップ3人の合計資産に及ばないという事態は、さすがに異常だと言わざるを得ないだろう。全世界の下位50%の資産は、トップ8名の資産とほぼ同じという事態もまた、貨幣経済というもののコクハクな暴力性をあらわしている。グローバルな貨幣経済の最大の特徴は、それを誰もコントロールすることができないということにある。

貨幣経済のモラル、交換経済のモラルが、富の偏在（偏らせる）を促し、社会を分断し、ひとびとを孤立化させてゆくというベクトルを持っているのだとすれば、富を遍在化（行き渡らせる）し、社会をホウセツし、ひとびとを結び付けるベクトルを対置させる必要があるだろう。だが、どうやって？

これに対する簡単な答えはもちろんだが、鍵ならある。鍵とは貨幣経済以前のモラルである。

（注1） マルセル・モースの『贈与論』によるならば、貨幣以前の経済のモラルは、現在の等価交換のそれとは全く別のものだった。むしろ、倒立していたといえる。たとえば、全体給付のシステムを採用している文明化される以前の部族社会においては、ひとのものは自分のものだというモラル、贈与されたら等価物を返礼してはならないというモラルのほうが、一般的であった。現代においても、国家を持たないロマ族は、他者のものは自分のものでもあるという意識を共有していると聞く。あるいは、イヌイットは等価交換的な意識よりも、獲った獲物を分けあうことを自然だと考えている。かれらの世界では、

私有制や等価交換性が作り出すモラルは通用しない。

注目すべきは、これらの前貨幣的な全体給付のモラルが、現代の日本の社会の中にも生き残っていることである。この「モラルの生き残り」は、ひょっとしたら、これからの世界の希望になるかもしれない。

現代社会における等価交換のモラルとは、たとえば「人のものを盗んではいけない」とか「借りたものは返さなくてはいいけない」というものであった。しかし、親子関係とか親友関係においては、このモラルはまったく採用されずに、ヒンパンに返礼なしの贈与が行われている。もし、肉親の間に、等価交換のモラルを採用した場合には、親子関係はかなりギクシャクしたものになるだろう。

親は子どもに、普通に生前贈与（注4）を行っている。親が子どもを無償で養育するのは、義務でさえある。現代人は、こうした無償贈与のモラルと、等価交換のモラルを使い分けているわけである。

親子、兄弟という血縁家族や、強い仲間意識で成り立つ共同体の内部では、無償贈与のモラルが一般的であり、その外部との交換においては、等価交換のモラルを使うのである。わたしたちは、自分たちがモラルを何故使い分けているのか、実は自分自身でもあまりよく分かっていない。

バレンタインデーに、若い男子は500円ほどのチョコレートをプレゼントされるが、その返しはおそらくは1桁多い何かだろう。少なくとも、ここに等価交換の意識を持ち込んではいけないうと、男女ともに思っている。

病氣見舞いに対するお返しは半返しである。

神社仏閣に対する賽銭さいせんは、ほとんど贈与である。等価物の見返りなどはもとめておらず、むしろずっと大切な家族安寧や、事業の成功を期待している。

現代社会においてなお、等価交換とは違う交換が行われており、その習慣を現代人は手放そうとはしない。この、より多く返すか、より少なく返すことが意味していることとは何なのだろうか。

ありていに言ってしまうと、それは「つながり」である。「借り」ている状態とは、清算が為なされていないということである。

あり、清算されるまでは貸し手と借り手はつながっているということを意味している。逆に言えば、清算とは関係が終わったということである。絶えざる関係の清算こそが、資本主義の原動力である。関係の清算とは、商品と貨幣のトランザクション（取引）のことであり、このトランザクションを増やし続けることが、経済的成長ということだからである。貸借関係をそのまま維持することは、トランザクションの停止を意味することである。

古着を仲間内で回していれば、新しいファッショ市場は生まれない。

もし、「借り」の状態を、人が生きていくうえで自然な状態であり、生き延びていく知恵であると考えたものがあるとしたら、それは社会の下層に固定化されたひとびとや、過疎化する地方に生きるひとびとであるに違いない。

少子化、過疎化、格差の拡大は、こうしたひとびとを大量に生み出すことになる。そして、おそらくはかれらこそが、新しいモラルの担い手になる。

やむなく陥った、その日暮らしの境遇にあるならば、連帯すること、資産を共有してゆくこと、生活のコストを最小化することで生き延びていくこうとするだろう。

シェアハウスや、コーポラティブハウス^(注5)は、居住のコストを下げる。インターネット上のバザー空間は、衣類のコストを下げる。カーシェアリングは、移動のコストを下げる。現実には、限られた資源を共有するいは、分配、再分配を繰り返すための場ができており、皮肉なことにビジネスもこの新しい市場に参入し始めている。

共同体の運営基準は、損得ではなくてルールである。ルールに従えない人間は排除され、共同体の外部へと追いやられる。そうした追われたひとびとが生きていける唯一の場所が市庭^{いちば}だったのである。現代の問題は、この逃れの場所であった市場の価値観が、有縁の場をサンショク^カしてしまったところにある。古いルールを解体し、合理的な判断を優先させる社会をつくることは、近代化の別名でもある。しかし、合理性とはこの場合、金銭合理性そのものであって、自然の中で生きることを最適化することを意味しない。金銭合理性の追求は、やがてわたしたちが生きている「場」そのものをキソ^キンシ、破壊してしまうかもしれない。公害や、温暖化は、そのひとつの表れだろう。

シェアハウスやコーポラティブハウスといった半共同生活の住人たちは、当初はやむなくそうだったのかもしれないが、

その生活の中で思わぬ恩恵を受けることになるかもしれない。その恩恵とは、現代社会が失いつつある有縁共同体の手触りである。

市場化とは、無縁化とほとんど同義である。共同体内部には、市場は生まれない。人間社会とは、もともとは共同体的であり、相互扶助的なものであった。共同体的とは、損得勘定とは別の価値観によって運営されているということである。

人口減少社会における社会デザインとは、無縁の世界に有縁の場を設営してゆくこと以外にはないだろう。いったんは、民営化され破壊された、社会的共通資本を再生させていくこと。都市部の中に、家族に代わり得る共生のための場所を作り出していくこと。そして、人類史的な相互扶助のモラルを再構築してゆくこと。

それが可能になったとき、人口減少問題は、もはや問題ではなくなっているはずである。

（平川克美 「人口減少がもたらすモラル大転換の時代」 『人口減少社会の未来学』）

（注1） マルセル・モース — 一八七二～一九五〇。フランスの社会学者・文化人類学者。

（注2） ロマ族 — インド北部を起源とし、中東欧を主として世界各地に居住する民族グループ。

（注3） イヌイット — カナダ北部などの氷雪地帯に住む先住民族。

（注4） 生前贈与 — 生きているうちに自分の財産を他人にゆずること。

（注5） コーポラティブハウス — 入居希望者が集まり組合を結成し、その組合が事業主となって、土地取得から設計・建設業者の手配まですべてを行う集合住宅のこと。

問一

「明日の米びつさえ開かない」と同じ表現技法が用いられているものとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

1

- 1 「一粒の米には七人の神様がいます」という言い伝え
- 2 八十八歳という年齢を「米寿」と呼ぶこと
- 3 アメリカという国名を「亜米利加」と表記すること
- 4 上司にペコペコしている人を「コメツキバツタのような人」と表現すること
- 5 小さく白い花を米粒に見立てた「コメツツジ」という植物名
- 6 何回食べても飽きのこないものを「米の飯」にたとえること

問二

「コクハク」「ホウセツ」「ヒンパン」「サンシヨク」「キンソン」の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

2

6

- | | | | |
|---|------------------------------------|--------------|-----------------|
| ア | 1 ハクライ品を愛好する | 2 権利をハクダツする | 3 意志ハクジャク |
| | 4 少数民族のハクガイの歴史 | 5 実力がハクチユウする | 6 ヒヨウハクの詩人 |
| ウ | 1 セツレツな文章 | 2 セツトウの罪を認める | 3 オウセツ間に通される |
| | 4 会社のソウセツ者 | 5 セツソウがない生き方 | 6 自然のセツリを追い求める |
| エ | 1 新製品のハンプ会 | 2 モハンの態度 | 3 情報のハンラン |
| | 4 ウンパン車を呼ぶ | 5 ハンカ街を歩く | 6 ハンヨウA Iが注目される |
| カ | 1 サンバシを渡る | 2 ヨウサンで栄えた町 | 3 大企業のサンカに入る |
| | 4 仲間とシンサンを共にする | 5 多数のサンドウを得る | 6 カイサンを宣言する |
| キ | 1 壁にキレツが生ずる | 2 キカガク的な模様 | 3 運命のキロに立つ |
| | 4 キヨ褒貶 <small>ほうへん</small> の落差が激しい | 5 キンキを犯す | 6 キセイ事実として認める |

問三

「貨幣経済のモラル、交換経済のモラルが、富の偏在（偏らせる）を促し、社会を分断し、ひとびとを孤立化させてゆく」とはどういうことか。その説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

7

1 お金があれば満足な医療や教育さえ受けられない世の中では、助け合いの精神もなくなり、他人を信用することができなくなり、個人個人が孤独な存在になっていくということ。

2 貨幣は本来、取引や交換のための道具であつたはずなのに、それをため込むことを目的とする人が増えるにしたがつて貧富の差は広がり、人々の相互の助け合いが失われたということ。

3 貨幣経済のグローバル化が進み、国境をこえて多国籍企業や国際投資家などに富が集中するようになったため、日本の中小企業は打撃を受け、経営難におちいったということ。

4 累進課税制度を厳密に適用しなかつたため、国家による富の再分配機能が効果的に作用しなくなり、資産家とそうでない人の経済格差が大きくなり、貧しい側の人々の生活が苦しくなったということ。

5 等価交換などの貨幣経済のモラルは、本来は富を遍在化するべきものだったはずなのに、貧富の差を拡大させることになっているという点で倒立してしまったということ。

6 貨幣経済のモラルが前貨幣的な交換のモラルと結びつくことによって、贈与されても等価物を返礼せず、豊かなものは資産をため込み、貧しいものは明日の食事にも困るような格差が生まれてしまったということ。

問四

「むしろ、倒立していたといえる」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

8

- 1 貨幣経済以前のモラルは、他者のものは自分のものでもあるという意識や、獲物を分配しあうのが自然だと考える点で、現代の私有制や等価交換の考え方と逆転しているといえるから。
- 2 貨幣経済以前の部族社会には全体給付のシステムがあるように見えるので、近現代の共産主義の経済モラルを先取りしている点で、現代の資本主義の経済モラルと逆転しているといえるから。
- 3 貨幣以前の経済モラルは、文明化される以前の考え方にもとづいており、獲物を分け与えることで支配者の権力を正当化するという点で、平等主義的な現在の等価交換のモラルと逆転しているといえるから。
- 4 貨幣経済以前のモラルで成り立っている社会は、私有制や等価交換性などの精密な概念ではなく、より素朴で大らかな全体給付のモラルを好んでいたという点で、貨幣経済のモラルと逆転しているといえるから。
- 5 貨幣以前の経済モラルは、現代の日本社会の親子関係の中などに生き残っており、近代の西欧合理主義にもとづく等価交換のモラルとは、文化的な起源がかけ離れているといえるから。
- 6 貨幣経済以前のモラルは、親が子どもを養育することを義務だと考えるなど、封建的で全体主義的な社会システムをつくり出すという点で、自由主義的な貨幣経済のモラルとは対照的だといえるから。

問五

「現代人は、こうした無償贈与のモラルと、等価交換のモラルを使い分けている」とあるが、「無償贈与のモラル」と「等価交換のモラル」にはどのような違いがあるか。その説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

9

- 1 共同体の外部との交換においては等価交換のモラルに従うのに対して、共同体の内部では見返りを求めない無償贈与を行うのが常識的なモラルであるという違い。
- 2 共同体の内部においては子どもの教育のような無償贈与が必須の義務であるが、共同体の外部では自由競争原理にもとづいた等価交換が必須であるという違い。
- 3 仲間意識の強い共同体内部の無償贈与のモラルは感情的な「つながり」を維持するが、共同体の外部との間での等価交換のモラルは理性的な「つながり」を維持するという違い。
- 4 共同体外部との等価交換的取引は常に関係を清算し続けることを意味するのに対し、共同体内部での無償贈与は貸借関係を維持することで人々の「つながり」を維持することを意味するという違い。
- 5 共同体内部での無償贈与のモラルは成長過程において無意識のうちに身につくものであるのに対し、共同体外部との間の等価交換のモラルは意識的に学ばなければ身につかないという違い。
- 6 共同体外部との間では商品と貨幣の等価交換が行われるのに対し、共同体内部における無償贈与も実は家族の安寧や事業の成功という見返りが贈与物と等価になっているという違い。

問六

「ありてい」の辞書的な意味として、**正しくないものを次の中から一つ選べ。**

10

- 1 ありのままであること
- 2 いっわりのないこと
- 3 ありきたりなこと
- 4 通りいっぺんであること
- 5 ありったけということ
- 6 めずらしくないこと

問七

「新しいモラル」の実践例として、本文中で紹介されていない例も含め、**正しくないもの**を次の中から一つ選べ。

11

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 シェアハウスやコーポラティブハウス | 2 インターネット上のバザー空間 |
| 3 指定された地域内での消費に使える地域ポイント | 4 カーシェアリング |
| 5 住民は無料で乗れるコミュニティバス | 6 自然分解プラスチックなどのエコ素材 |

問八

「**皮肉な**ことにビジネスもこの新しい市場に参入し始めている」とあるが、なぜ「皮肉」といえるのか。その理由の説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

12

- 1 商品と貨幣の取引を停止し、住居・衣類・移動手段をシェアする人々が新しい生活のモラルを生み出しつつある現場に、等価交換と経済的成長という矛盾したモラルをもつビジネスが参入してきているから。
- 2 少子化・過疎化・格差の拡大が進むことによって、その日暮らしの境遇に追いつめられた人々が、限られた資源を再分配するしくみをつくろうとしている場に、資本主義的ビジネスが格差を拡大しようとして参入してきたから。
- 3 生き延びるためという切実な動機から、限られた資源を共有し、生活のコストを最小化する新しいモラルを実践しはじめた人々が、その生活スタイルがビジネスになると知って、資本主義的な市場に参入してしまっているから。
- 4 新しいモラルにもとづく共同体の運営基準は損得ではなくてルールを守れるかどうかだが、いったん共同体の外へ追いやられた人間が、市場的な損得の価値観をもったビジネスによって共同体に参入してきているから。
- 5 貨幣経済のモラルの中で生活が困難になった人々が、生き延びるために資産を共有し再分配を繰り返すことを選んだのに、その生活システムを商品とみなすような資本主義的ビジネスが参入してきているから。
- 6 有縁共同体の手触りを求め半共同生活をするようになった住人たちは、共同体の外部からやってきて、古いルールを解体し合理的な判断を優先させるビジネスを呼び込んでしまったから。

問九

「その」^Fが指す内容として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

13

- 1 現代の問題
- 2 古いルールを解体し合理的な判断を優先させること
- 3 金銭合理性の追求
- 4 自然の中で生きること
- 5 自然の中で生きることが最適化すること
- 6 金銭合理性の追求が人間の生きる「場」を破壊すること

問十

「無縁の世界に有縁の場を設営してゆくこと」とはどういうことか。その説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

14

- 1 共同体のルールに従えず外部へと追われた人々が、逃れの場所である市場の中で金銭合理性に落ちることなく、合理的な判断を優先させる社会をつくること。
- 2 金銭合理性の追求という市場的な価値観によって破壊された世界の中で、公害や温暖化によって破壊された環境を再生しながら、自然の中で生きること最適化した社会をつくっていくこと。
- 3 もとは共同体からの逃れの間であった市場の価値観、すなわち金銭合理性の追求によって人々が分断された現代社会の中で、家族や親類に代わりうる相互扶助的な共同体をつくり出していくこと。
- 4 市場化によって破壊されてしまった相互扶助的な共同体に代わって、互いに過剰に干渉せず、個人の自由を保証するような、新しいモラルにもとづく共同体をつくっていくこと。
- 5 人口減少社会において、損得勘定とは別の価値観によって運営されるような共同体をつくり、社会全体が家族のような意識をもって子育てをするしくみをつくること。
- 6 人口減少社会において、家族に代わりうる相互扶助的な人間の縁をつくり出し、個人の収入で不足している分を人的なつながりで補って子育てできるような体制を整えること。

問十一 「社会的共通資本」^Gの本文中の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

15

- 1 民営化され破壊される前の家族関係
- 2 家族に代わりうる精神的なつながり
- 3 相互扶助のモラルの再構築について議論できる場
- 4 共同体の外部に追いやられた人々も生きていける場所
- 5 金銭合理性とは異なる価値観によって運営される共同体
- 6 公害や温暖化によって破壊された自然環境

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から2つ選べ。

16

16

の欄に、二か所マークすること

1 グローバルな貨幣経済の最大の特徴は、それを誰もコントロールすることができないということであり、その結果、本来は流通することが命だったお金という富が一極に集中してしまい、国家による分配機能が働かなくなっている。富の偏在、社会の分断、人々の孤立化といった問題点を解決するには、貨幣経済の等価交換モラルではなく、貨幣経済以前の全体給付モラルがヒントになる。

2 現代社会における等価交換のモラルは「借りたものは返さなくてはいけない」というものであったが、貨幣以前の社会では、ひとのものは自分のものだというモラル、贈与されたら等価物を返礼してはならないというモラルのほうが一般的であった。等価交換のモラルが崩壊した現代では、他者のものは自分のものでもあるという意識が、これからの世界の希望になるかもしれない。

3 現代人は無償贈与のモラルと等価交換のモラルを使い分けている。たとえば、家族や強い仲間意識で成り立つ共同体の外部との交換においては、商品と貨幣の取引など等価交換のモラルを使うが、共同体の内部では、親から子への生前贈与や養育、バレンタインデーのお返し、病気見舞いのお返し、神社仏閣に対する賽銭など無償贈与のモラルが一般的である。

4 古着を仲間内で回していれば新しいファッション市場は生まれないということからもわかるように、商品と貨幣の取引を増やし続けることが経済的成長である。ゆえに、社会の下層に固定化された人々や過疎化する地方に生きる人々が、商品と貨幣の取引ではなく、「借り」の状態の維持や資産の共有によって生き延びていくとすることは、経済を衰退させる危険な兆候だといえる。

5 シェアハウスやインターネット上のバザー空間、カーシェアリングなどによって生活のコストを最小化することは、その日暮らしの境遇でもなんとか生き延びていくための知恵である。それだけでなく、連帯することや資産を共有してゆくことは、市場化によって現代社会が失いつつある有縁共同体の手触りを取り戻し、相互扶助のモラルを再構築することにつながるかもしれない。

6 共同体の運営ルールに従えず排除され、共同体の外部へと追いやられた人々が生きていける唯一の場所が市場だったところからもわかるように、閉鎖的な有縁共同体の古いルールを解体し合理的な判断を優先させる社会をつくるには市場の価値観が必要である。したがって、人口減少社会における社会デザインとは、都市部の中に家族に代わりうる共生のための場所をつくり出していくことになる。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

哲学者のマーク・フィッシャーは、若い世代をはじめとして鬱病や適応障害を起こしている人が急増しているという統計データを確認しながら、絶えざる成長を要求する現代の経済文化が、鬱病を急増させていると指摘しています。

現代の経済文化に対してはいろいろな命名がなされています。ここでは、工業製品や成果物を売りさばくことをネットウに置いた（注1）フォーダイズム以降の、サービスや体験を中心とするロジックで構成された経済文化だという意味で、「ポストフォーダイズム」と呼ぶことにします。ポストフォーダイズムでは、縦割りに特定の事柄だけを見るのではなく、トータルな視点が要求され、次々と変化するニーズや社会状況に合わせて、自分たちの仕事を適応させていくことが求められます。あるときの成功例が、次の年には（注2）チンプ化しているような状態です。

ポストフォーダイズムのキーワードは、フレキシビリティ（柔軟性）です。絶えず変化する見通しの悪い状況で、常に新しく学び、そのツド（注3）立ち上げられるプロジェクトで異なる仲間と協調しながら、新しい成果を出し続けていくことが求められるのです。いつまでも学び続け、いつまでも変化に適応し、いつまでも成長し続ける人材であること。

ここで目指されているものを、「柔軟な適応性」と呼ぶこともできます。新しい目標が立てられたら、昨日までと違っていたとしてもそれに飛びつき、これまでのスキルが役立たなくなったら、研修や教育を（注4）厭わずに新しいスキルを身につけることができる人材。「予測不可能な出来事に対応する能力を身につけ、完全なる不安定状態、つまり、（シチュエーション）（注5）『プレカリティ』の状態で生きること学ばねばならない」のです。

こうした経済文化において、教育は生涯化^B、労働と暮らしの境界は曖昧になります。働く人には、研修や訓練が絶え間なくあり、ホワイトカラーの間では、自宅でも勤務したり、勤務先を自宅にしたりすることがスタンダードになっていく。一定の技能を習得した上で階層を厳格に上昇していくというイメージをもう持つことはできない。終身雇用と年功序列の（注6）ような雇われ方は期待できず、「組織から組織へ、役割から役割へと所属を変えながら、定期的に再学習する（re-skill）（注7）」ことが求められている。ポストフォーダイズムという言葉で表現されるのは、このことです。

こういう社会経済的条件の下で失われるのは、安定性や将来の見通し、長期的視野です。実際、企業が「長期」について語るときは、せいぜい10年先くらいのことです。他にも、社内のキャリア教育研修などで「長期目標」が語られるとき、講師によるでしょうが、3、4年先くらいを「長期」と呼んでいることが多いはずです。

冷静に考えると、「いやいや、そんな短すぎでしょ」ってなりません。一人の人生、ひいては社会の継続性の中では、ビビたる時間です。7、8年かけて本を書き、10年かけて博士号を取得してきた身なので、特にそう思うのかもしれませんが、ともかく、がんばって引きのばしても、せいぜいそれくらいの時間スパンでしか考えられないのがポストフォーダイズムの知的習慣です。

こうした働き方や教育、キャリア形成の新しいパターンが、メンタルヘルスの悪化と関係しているとマーク・フィッシャーは考えていました。しかし、興味深いことに急増したのは、鬱病や適応障害だけではありません。何が急増したのでしょうか。

フレキシブルであることが要求される状況下で、人が悩みを抱えたとき、どんな対策をとるでしょうか。仕事や人間関係で行き詰まったとき、自分や身の回りの人がどうするかを思い浮かべればすぐにわかると思います。

社会学者の牧野智和さんによると、自分をめぐってトラブルや悩みを抱えたとき、「自分以外の何者にも頼らずに解決しようとする志向が強ま」り、「外部から保護され、汚染・抑圧・変形させられていない、無垢な『本当の自分』が隠されているのではないかといった、内的世界の探求の過熱」が現代において生じています。

そう、答えは自己啓発です。自己啓発が急増するのです。私たちは自分の内面に確定的な答えがあると信じ自分自身に熱中し始める。「自分探しが止まらない」とでも言いたくなるような事態がここにはあります。ビジネス書や一般書の相当数が、この意味での「自己啓発」的な側面を持っています。

悩みや困難を抱えている人は、社会に目を遣るのではなく、自分自身と向き合い、内面を掘り下げるようなアプローチをとりがちになります。「自分の直感に従って判断しろ」、「自分がどう感じたかを尊重しなさい」、「自分の情熱に従え」とい

うメッセージに心揺さぶられるものを感じたとすれば、それは、まさにこうした文化の中を生きていることの証^{あかし}です。
 (注3) スティーヴ・ジョブズがスタンフォード大学で卒業生に向けて贈ったスピーチでもこんなフレーズが出てきます。

独断に囚^{とら}われてはいけません。それは、他人の思考の結果とともに生きることだからです。他人の意見というノイズに、自分の内なる声をかき消させてはいけません。そして、最も大事なことです。自分の心と直感に従う勇氣を持つてく^ださい。心や直感^{あかし}は、どういうわけか自分の本当になりたいものを既に知っているのです。他のすべてのことは、取るに足りません。

こういう話を聞いて、「なるほど」「確かに」「そうだったのか」と感じ、私たちは自分の心や直感に従って生きてみたいと思^{おも}うわけですね。

しかし、「自分の内面と向き合^あえ」「自分の心の声を聞け」という助言^{タケ}を素直に受け取りすぎることは危^{あかし}うさがあります。心理学者のスヴェン・布林クマンが指摘するように、内面を見つめたところで答えが出ないことが世の中にはたくさんあるし、内面を見て答えを探すべきでないこともたくさんあるからです。

そもそも、「自分の心の声に従え」というアプローチには隠れた前提があります。すなわち、内なる声は一つであり、その声こそが自分を然^{しか}るべき一つの進路へと導いてくれるはずだという前提です。さらに言えば、何かを調べたり学んだり他者の視点を取り入れたりしなくても、自分に聞きさえすれば、必然的に「これだ」と言えるような正解が見つかるはずである、という前提もあります。

ここでは、他者の想像力や周囲の声、あるいはそれを学ぼうとする努力は、最善の道に至る方法をわからなくさせる、取るに足らない「ノイズ」として退けられています。それに、自分からたった一つの声しか聞くつもりがありません。というより、自分の心の声は一種類だと想定されているのです。しかし、これはあまりに安易ではないでしょうか。

私たちは一枚岩の存在ではありません。スマホに慣れ切った私たちが、聴き取るだけの感性を持つているかはさておき、自分の内側にはいくつもの声が発せられているはずです。つまり、一人の人間の中にも、「多声性」(多様な声)があるので「自分の中に他者が住んでいる」と言えるほど、自己は複数に分かれており、自分と自分自身が対話するようなどころがあり、本書ではそのことの重要性を強調してきました。

加えて、「他者に見られる自分」も自分の重要な構成要素であるという点で、他者は、ノイズであるどころか、自分という庭を豊かに育ててくれるものでもあります。自分の多声性を作る契機^Fは、自分の外側に、つまり他者の側にもあるのです。要するに、他者はノイズではないし、自分の心の声を聞いたとしても、複数の答えが返ってきて当然なのです。ジョブズの助言に素直に従おうとすると、こうした事情を無視して、自分の多様性を抑圧しかねません。いろいろな植物や樹木があったはずの庭を、単一の植物を育てる場所であるかのように捉えてしまいかねないわけです。

(谷川嘉浩『スマホ時代の哲学―失われた孤独をめぐる冒険』より)

(注1) フォーダイズム ― アメリカ合衆国のフォードモーター社が科学的管理法を応用して開発した生産手法や経営手法。

(注2) プレカリティ ― 社会学用語で「予測できない、または不安定な状態」を指す。

(注3) スティーヴ・ジョブズ ― 一九五五～二〇一一。アメリカ合衆国の起業家、実業家、工業デザイナー。アップル社の共同創業者の一人。

(注4) スタンフォード大学 ― カリフォルニア州スタンフォードに本部を置くアメリカ合衆国の私立大学。

問一

「絶えず成長を要求する現代の経済文化が、鬱病を急増させている」のはなぜか。その理由の説明として、最も
適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

17

1 フォーダイズム以降、工業製品や成果物だけでなくサービスや体験までも売りさばくことを求められる現代人は、常にオーバーワークの状態におかれており、疲労回復と精神的リフレッシュのための時間が不足しているから。

2 現代の経済文化の中では、次々と変化する社会状況やニーズに合わせて自分たちの仕事を適応させていくことが求められるが、たとえ適応したとしても、その仕事のスタイルが数年後にはありきたりでつまらないものに見えてしまうから。

3 絶えず変化する社会状況の中で成長し続ける人材になるためにはフレキシビリティが必要であるが、社会から求められるフレキシビリティのレベルが人間の本性を超えているから。

4 予測不可能な出来事に対応し、不安定な状態で生きるための働き方や教育、キャリア形成のパターンに柔軟に対応することができない人が、精神面で不安定になってしまうから。

5 ポストフォーダイズムの文化の中で、終身雇用と年功序列によって守られた正社員と、非正規労働者との格差が拡大し、若い世代は生活基盤が不安定なまま労働市場に送り込まれるから。

6 ポストフォーダイズムの知的習慣の中では、企業の考える「長期」がせいぜい10年くらいの長さになってしまい、安定性や将来の見通し、長期的視野が失われてしまうから。

問二

「ネントウ「チンブ」ツド」シユウア^カク」ビビ」の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

18

22

イ 1 費用をネンシユツする 2 テンネン記念物に指定される

3 ネンチャクリヨクのある素材 4 ネンボウ制で契約する

5 イチネン発起する 6 改憲論がサイネンする

ウ 1 広場の中央にチンザしている 2 チン上げ交渉を行う

3 チンは天子の一人称である 4 シンチン代謝

5 チンシ黙考 6 チンチョウに値する品

エ 1 おツヤの準備をする 2 青梅を見て口中にツバを引く

3 ツツウラウラに知れ渡る 4 漢文では反語とツイクが重要だ

5 ツゴウをつける 6 タケヅツに水をくむ

オ 1 要求をイッシユウする 2 公人のシユウブンが広がる

3 議論のオウシユウになる 4 シユウチ心が強い

5 部屋にシヨウシユウザイを置く 6 車窓の風景にリョシユウを覚える

カ 1 希望条件をビコウランに記入する

2 ビモク秀麗

3 ジビ科の看板 4 シユビは上々

5 有終のビ 6 人情のキビに触れる

問三

「ロジック」^Aの意味として、本文の文脈上最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

23

1 言語 2 文法 3 相互関係

4 推理 5 論理 6 必然性

問四

「教育は生涯化^Bし」とあるが、「教育の生涯化」の内容として、本文の文脈上最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。24

- 1 社会全体の経済発展のため、個人が研修や訓練を絶えず受け続けること。
- 2 不断の経済成長を求められる文化の中で、在宅勤務や勤務先にとまり込む人が出てくること。
- 3 組織内の階層を上昇していくために、多くの技能を習得し続ける必要があるということ。
- 4 組織から組織へ、役割から役割へと所属を変えていくような働き方をする事。
- 5 予測不可能な出来事に対応する能力を身につけるため、定期的に再学習をすること。
- 6 生活の安定や将来の見通しを得るため、常に新しいスキルを身につける努力をすること。

問五

「終身雇用と年功序列^Cのような雇われ方」に関する説明として、本文の論旨からみて正しくないものを次の中から一つ選べ。25

- 1 縦割りに専門化された部署に長期間とどまり、担当する分野の専門的な知識や技術が求められること。
- 2 先達の成功例から学び、自らの成功例は後進のために記録し伝えていくという思考が役立つこと。
- 3 職場と家庭が明確に区別され、仕事の業績の評価によって地位の上下が決まっていくこと。
- 4 所属する組織や部署が変わることなく、一つの知識や技能を長い年月をかけて磨き上げていくこと。
- 5 働き手の定年退職までの生活の安定や将来の見通しを、雇用する企業の側が保証すること。
- 6 企業内で「長期目標」を語るとき、数年単位ではなく数十年の単位で語れるような視野があること。

問六

「フレキシブルであることが要求される状況下で、人が悩みを抱えたとき、どんな対策をとるでしょうか」とあるが、その答えとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 26

- 1 自分以外の何者にも頼らずに解決しようとする志向が強まり、自分の内面を掘り下げするための旅に出る。
- 2 不安定な外部からの影響を受けていない「本当の自分」を探すため、ビジネス書や実業家の講演から学ぼうとする。

- 3 ビジネス書や一般書の影響で「自己啓発」の情熱をかき立てられ、自分の心や直感に従って生きようとする。
- 4 予測不可能な外部の社会ではなく自分の内面に目を向け、自分の内面から「正解」を見つけようとする。
- 5 外部から汚染されていない「本当の自分」を探せ、というメッセージに心揺さぶられるようになる。
- 6 自分の情熱に従い、無垢な自分を守るため、他人の意見というノイズと戦おうとする。

問七

「こうした文化」が指す内容として、正しくないものを次の中から一つ選べ。 27

- 1 個人に対して絶えざる成長を要求するような文化
- 2 鬱病や適応障害の急増の原因となっているような文化
- 3 フレキシブルであることが要求されるような文化
- 4 自己啓発的な書物が大量に出版されるような文化
- 5 悩む人が自分の内面に目を向けがちになるような文化
- 6 自分の思考よりも直感に従う勇気が推奨されるような文化

問八

「『自分の内面と向き合え』『自分の心の声を聞け』という助言を素直に受け取りすぎることに危うさがあります」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

28

1 「人は何のために生きるのか」といった内面を見つめたところで答えが出ないことや、「社会的現実をどう改革するか」といった内面を見て答えを探すべきでないことが、世の中にはたくさんあるから。

2 内なる一つの声が正しい一つの進路へと導いてくれるはずという前提を無意識に受け入れ、自分の内面に隠れている確定的な答えを知るための「自分探し」が止まらなくなるから。

3 他者の視点を取り入れなくても自分の内面に正解が見つかるという考えにとらわれ、自己啓発に熱中しているうちに自分の中にある多様な可能性を抑圧してしまうことになるから。

4 他者の声や周囲の声に謙虚に耳を傾けることで自分が成長できるのに、それら外部の声を、最善の道に至る方法を隠してしまう「ノイズ」だとして退けてしまう可能性があるから。

5 そもそも自分の内側には多様な声が存在しており、複数の自分の間で対話するようなところがあるのに、自分の中の正しい声は一つであると考え、それ以外の声を抑圧してしまうことになるから。

6 他者はノイズではないし、自分の心の声を聞いたとしても複数の声が返ってきて当然だというジョブズの助言を無視して、自分の多様性を抑圧してしまう可能性があるから。

問九

「さておき」に最も意味の近い語として、適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

29

1 くではなく 2 くをふまえて 3 くというより

4 くにしたがって 5 くはもちろん 6 くはともかく

問十

「契機」^Fに最も意味の近い語として、適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

30

- | | | |
|------|------|--------|
| 1 責任 | 2 義務 | 3 きっかけ |
| 4 素材 | 5 栄養 | 6 協力者 |

問十一

「いろいろな植物や樹木があつたはずの庭を、単一の植物を育てる場所であるかのように捉えてしまいかねない」^Gに用いられている表現技法の説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

31

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 1 擬人法 | 2 擬声語 | 3 擬態語 |
| 4 直喩法 | 5 逆説 | 6 誇張法 |

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から2つ選べ。

32

32

の欄に、二か所マークすること

1 絶えず変化する見通しの悪い状況の中でも工業製品や成果物を売りさばくことを求められるポストフォードイズムの現代の経済文化の中では、次々と変化するニーズや社会状況に合わせて、自分たちの仕事を適応させていくことが求められる。新しく立ち上げられるプロジェクトで異なる仲間と協調しながら、新しい成果を出し続けていく人材になるためには「柔軟な適応性」が必要である。

2 ポストフォードイズムの経済文化の中では安定性や将来の見通し、長期的視野が失われ、企業が「長期」について語るとしても、せいぜい10年先くらいまでしか考えられなくなっている。こうした知的習慣に不安を感じる人の中には、研修や訓練に絶え間なく参加し、組織から組織へ、役割から役割へと所属を変えながら、定期的に再学習するような生き方を選ぶ人もいる。

3 絶えず変化する状況の中でトラブルや悩みを抱えると、自分以外の何者にも頼らずに解決しようとする志向が強まる。このことは、現代の経済文化の中で鬱病や適応障害の急増と並んで、「本当の自分」探し、すなわち自己啓発が急増していることの原因であるが、自分の内部に唯一の内なる声を探そうとすることは自分の内部の多声性を抑圧してしまうことにもなる。

4 フレキシブルであることが要求される社会状況下で悩みや困難を抱えている人は、不安定な社会に目を向けるのではなく、自分自身と向き合い、内面を掘り下げるようなアプローチをとりがちになる。そういった心理につけこんで「自分の直感に従って判断しろ」などのメッセージで若者の心を揺さぶろうとするステイヴ・ジョブズのような人物には警戒すべきである。

5 内なる声は一つであり、その声こそが自分を正しい進路へと導いてくれるはずだという前提や、何かを調べたり学んだり他者の視点を取り入れたりしなくても、自分に聞きさえすれば、必然的に「これだ」と言えるような正解が見つかるはずである、という前提は、自分の中にある複数の自己、すなわち多様性を抑圧した結果として意識の表面に現れてくるものである。

6

「他者に見られる自分」も自分の重要な構成要素であるという点で、他者は自分という庭を豊かに育ててくれるものでもある。ところが、「他人の意見というノイズに囚われず、自分の心と直感に従え」といった助言に素直に従ってしまうと、他者があってこそ多様性が育まれるはずの自分という庭を、単一の植物を一人きりで育てる場所であるかのように捉えてしまう危険がある。

次の〔三〕の問題はクリエイティブイノベーション学科（文系学力重視型）を受験する者、またはクリエイティブイノベーション学科（文系学力重視型）と映像学科を併願する者のみ解答すること。

〔三〕 次の文章は『蜻蛉日記』の一節である。作者の母はしばらく患ったのちに亡くなり、母を見送った作者も体調を崩してしまふ。これを読んで、後の問に答えよ。

幼き子を引き寄せて、わづかに言ふやうは、「われ、はかなくなりて死ぬるなめり^(注1)。かしこに聞こえむやうは、『おのがうへをば、いかにもいかにもな知りたまひ^b』^(注2)」

X

この御後のことを、

人々のものせられむ上にも、とぶらひものしたまへ』と聞こえよ」とて、「いかにせむ」とばかり言ひて、ものも言はれずなりぬ。日ごろ月ごろわづらひてかくなりぬる

人をば、いまはいふかひなきものになして、これにぞ皆人はかかりて、まして「いかにせむ。などかくは」と、泣くが上にも泣き感ふ人多かり。

ものは言はねど、まだ心はあり。目は見ゆるほどに、いたはしと思ふべき人寄り来て、「親はひとりやはある。などかくはあるぞ」とて、湯をせめて沃るれば、飲みなどして、身などもなほりもてゆく。さて、なほ思ふにも、生きたるまじきこちするは、この過ぎぬる人、わづらひつる日ごろ、ものなども言はず、ただ言ふこととは、かくものはかなくてあり経るを夜昼嘆きにしかば、「あはれ、いかにしたまはむずらむ」と、しばしば息の下にもものせられしを思ひ出づるに、かうまでもあるなりける。

人、聞きつけてものしたり。われはものもおほえねば、知りも知られず、人ぞ会ひて、「しかじかなむものしたまひつる」と語れば、うち泣きて、穢らひも忌むまじきさまにありければ、「いと便なかるべし」などものして、立ちながらなむ。そのほどのありさまはしも、いとあはれに心ざしあるやうに見えけり。

かくて、とかうものすることなど、いたつく人多くて、みなしはてつ。いまはいとあはれなる山寺に集ひて、つれづれとあり。夜、目も合はぬまに、嘆き明かしつつ、山づらを見れば、霧はげに麓をこめたり。京もげに誰がもとへかは出でむとす Y。いで、なほここながら死なむと思へど、生くる人ぞつらきや。

かくて十余日になりぬ。僧ども念仏のひまに物語するを聞けば、「この亡くなりぬる人の、あらはに見ゆるところなむある。さて、近く寄れば、消え失せぬなり。遠うては見ゆなり」「いづれの国とかや」「みみらくの島となむいふなる」など、

口々語るを聞くに、いと知らまほしう、悲しうおぼえて、かくぞいはるる。
ありとだによそにても見む名にし負はばわれに聞かせよみみらくの島

（『蜻蛉日記』）

（注1） かしこ —— あの方。作者の夫であり「幼き子」の父。

（注2） この御後のこと —— 母の法要。

（注3） 人ぞ会ひて —— 侍女が応対して。

（注4） 立ちながら —— 当時、死者のもとへ訪問しても、立ったままであれば死の穢れ^{けが}が避けられると信じられていた。

（注5） とかうものすることなど —— 母の法要やその後の諸事のこと。

（注6） 生くる人 —— 私を生きさせる人の意。「幼き子」をさす。

問一

傍線部ア・ウ・エ・オの「人」の説明として、最も適当と思われる組み合わせを次の中から一つ選べ。

33

- | | | | | |
|---|------|------|------|-----|
| 1 | ア 母 | ウ 女房 | エ 作者 | オ 父 |
| 2 | ア 母 | ウ 父 | エ 作者 | オ 夫 |
| 3 | ア 母 | ウ 父 | エ 母 | オ 夫 |
| 4 | ア 作者 | ウ 女房 | エ 母 | オ 父 |
| 5 | ア 作者 | ウ 母 | エ 母 | オ 夫 |

問二

「泣くが上にまた泣き惑ふ」についての説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

34

- 1 夫をはじめ周囲の人々は、作者が亡くなりそうなので、もうこれ以上泣けないというほど泣いて取り乱したということ。
- 2 女房などの周囲の人々は、作者の母が亡くなったことで泣くのに加え、作者も亡くなりそうのために更に泣いて取り乱したということ。
- 3 夫をはじめ周囲の人々は、作者の母が亡くなったことで泣くのに加え、作者も亡くなりそうのために更に泣いて取り乱したということ。
- 4 女房などの周囲の人々は、作者の母の法要でさんざん泣いたのに、今度は作者も亡くなりそうなので泣いて取り乱したということ。
- 5 女房などの周囲の人々は、作者の母が亡くなったことについて、もうこれ以上泣けないというほど泣いて取り乱したということ。

問三

傍線部 a～e の「な」の文法的な説明として、正しくないものを次の中から一つ選べ。

35

- 1 a は断定の助動詞の連体形撥音便の無表記形である。
- 2 b は呼応の副詞である。
- 3 c は強意の助動詞の未然形である。
- 4 d はナ行変格活用動詞の未然形活用語尾である。
- 5 e は伝聞・推定の助動詞の連体形の一部である。

問四

空欄

X

・

Y

に補うものの組み合わせとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

36

1 X ㍿ざれ

Y ㍿らむ

2 X ㍿ね

Y ㍿な

3 X ㍿そ

Y ㍿な

4 X ㍿そ

Y ㍿らむ

5 X ㍿ね

Y ㍿まじ

問五

「いと便なかるべし」・「いたつく人」の語句の意味の説明として、最も適当と思われるものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

いと便なかるべし 37

- 1 たいして不便でもないだろう
- 2 当然ひどく不都合である
- 3 当然とても気の毒である
- 4 たいして不都合でもないだろう
- 5 ひどく不便であるだろう

いたつく人 38

- 1 あれこれ尽力をする人
- 2 病気になって寝込む人
- 3 気の毒に思ってくれる人
- 4 いろいろ手を煩わせる人
- 5 何の役にも立たない人

問六

本文の内容についての説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

39

- 1 母の死後に体調を崩してしまった作者は、自分の葬儀はかまわずに母の葬儀の方を立派に行ってくださいと夫に伝えなさいとわが子に言うやいなや昏睡状態におちいった。
- 2 作者に付いていた周囲の人々は母親が亡くなったことはもう仕方がないものと諦める一方、体調を崩してしまった作者の回復にはまだ望みがあると落ちついて対処した。
- 3 作者は用意された薬湯を飲んだりするうちに持ち直したが、その後で母が生前どうやったら生きられるだろうと自らの病について嘆いていたことを悲しく思い出した。
- 4 法要のあと皆が山寺で一緒に喪に服していた際、体調の回復した作者は母を亡くした悲しみのあまり周囲の人々と目を合わせようとせず、このまま死にたいと思っていた。
- 5 死者の姿が見える島があるという僧たちの会話をきっかけに、作者は「耳^{みみ}楽^{らく}」という島の名に掛けて、その島の所在を聞いて訪れ、亡き母の姿を見たいという歌を詠んだ。

解答

〔一〕

問	一	二					三	四	五
		ア	ウ	エ	カ	キ			
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
解答	6	3	6	5	2	4	2	1	4

問	六	七	八	九	十	十一	十二	
番号	10	11	12	13	14	15	16	
解答	5	6	5	6	3	5	1	5

〔二〕

問	一	二					三	四	五
		イ	ウ	エ	オ	カ			
番号	17	18	19	20	21	22	23	24	25
解答	4	5	4	5	2	6	5	5	3

問題	六	七	八	九	十	十一	十二	
番号	26	27	28	29	30	31	32	
解答	4	6	3	6	3	4	3	6

〔三〕

問	一	二	三	四	五		六
					カ	キ	
番号	33	34	35	36	37	38	39
解答	3	2	3	4	2	1	5